

National OW-3MB 2ZW・OW-3MB 2EW ナショナル

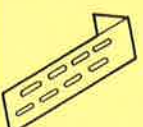
1

据付け工事

据付け場所は、水道配管工事・電気配線工事などの付帯工事が容易にできる場所にしてください。又、火災予防上所定の距離がじゅうぶんに取れるスペースが必要です。

2

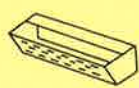
1. 開こん ●付属品(本体に同こんしています)

部品名(数量)	台所リモコン	燃料フィルターセット	アース棒	製品固定金具	製品固定用ビスセット	台所リモコン工事用ビスセット
外 観	 (1個)	 (1個)	 (1個)	 (1個)	 (1個)	 (1個)

●システム部材センター取扱い品

品 番	部 品 名	数 量	備 考
AD-3620STT	逆止弁付止水栓	1	20mm。他に13mmあり
AD-3224GBR	減 圧 弁	1	設定圧力196KPa(2.0Kgf/cm ²)
AD-3020-25F	フレキシブルチューブ	2	25cm(他に10、15、20cmあり)
AD-2005HL-1	強制排気トップ	1	強制排気式用
AD-T2005FE-1	強制排気筒セット	1	φ105 1m 1 曲りセット

●別販品(事業部取扱い品)

品 番	OT-904	OB-PC2K20	OB-KT8MZ
部 品 名	油 タ ン ク	リモコンケーブル	排気カバー
取扱い事業部	石油機器事業部	暖房システム事業部	暖房システム事業部
外 観			
数 量	1	1	1
備 考	タンク容量90ℓ 他に460ℓあり	2 芯コード(20m) 他に5、10、15mあり	

2. 設置及び据付け

●据付け場所の選定

- 本機は屋外専用です。屋内や浴室内には絶対に設置しないでください。
- 排気工事が基準通りに行える場所。
- 油タンクが安全に設置できる場所。
- 本体前面にメンテナンスができるスペース(60cm)がとれる場所。

●火災予防上の必要寸法

- 機器の据付けは各地区の火災予防条例に従ってください。
- 周囲の材料と本体との距離は下記寸法を確保できるように設置してください。(可燃物・不燃物いずれも)

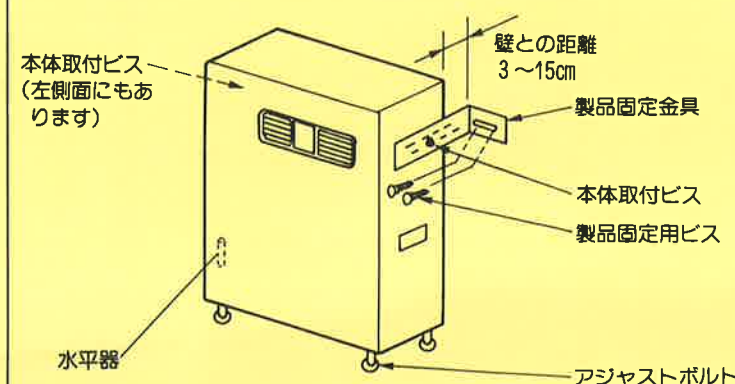
床面は金属板以外の不燃材を用いてください。

点検スペース確保のため、上面右側面左側面のうち少なくとも1面は必ず30cm以上とってください。

●本体の固定方法

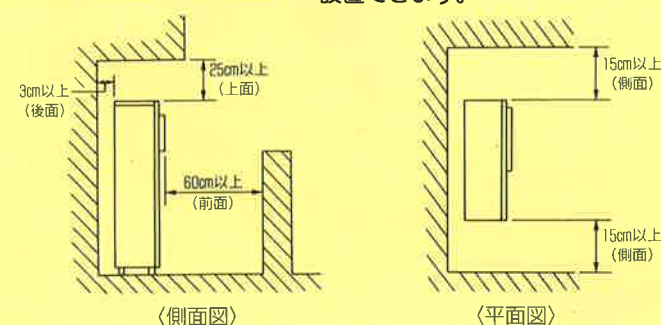
- ①本体下部のアジャストボルト(4箇所)を調節し、本体を水平に合わせてください。(本体側面の水平器で確認)
- ②付属の製品固定金具を本体側面に取り付け(左右どちらでも可)、付属の製品固定用ビス(2本)で壁に固定してください。

(壁がコンクリート、タイル、メタルラス張りおよびワイヤラス張りの場合は、付属のカールプラグを打込んでからビスで止めてください。(下穴φ6.4mm))

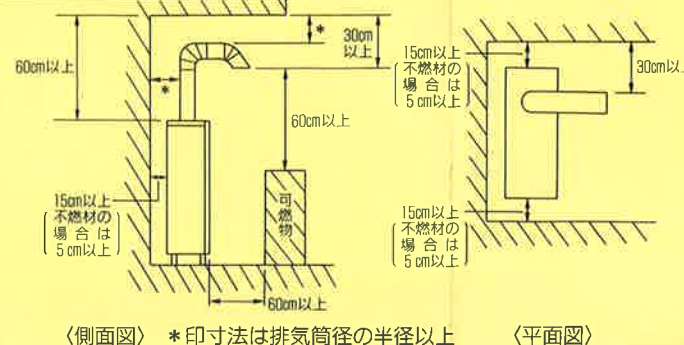


OW-3MB 2ZWの例

※防火性能評価認定品のため下記寸法で設置できます。



OW-3MB 2EWの例



混 合 水

- 圧力損失の少ない止機能付を用いて

給 水 配

給水圧力
この器具は点火する具の作動水圧)+(配頭)(通水時)以上の給水圧が必要です。水道の給水圧を確認して、お湯を快適に使用する水道の給水圧のめやす。

通常給湯 (シャワーを除く)	約118kPa
シャワー	約167kPa
2 階	上記給水 (0.3kgf/cm ²)

逆に高水圧地域(0.3kgf/cm²以上)では、118kPa(2kgf/cm²)用を付けてください。

水道配管工事

配管工事は水道局の指定工事店に依頼し、所轄の水道局の規定に従ってください。

給湯配管

- 材料は耐久性・衛生上の点から銅管を使用し、鉛管、塩ビ管は絶対使用しないでください。(使用している間に破裂する危険があります。)
- 配管長はできるだけ短くし、複雑配管はさけてください。
- 水抜きが容易にできるようにしてください。
- 途中エアー溜りのできるような配管にしないでください。
- 必ず十分に保温してください。

シャワー

- 圧力損失の少ないものを用いてください。

本体接続(ねじ R3/4)

- フレキシブルパイプカユニオン継手を用いてください。
- 上部が給湯口、下部が給水口です。逆接続すると正常運転しません。
- 給水・給湯接続口のスパナかけ部にスパナをかけ、本体に無理な力がかからないようにしてください。

逆止弁付止水栓

- 逆止弁が必要な地区は給水接続口近くに逆止弁付止水栓を必ず設けてください。

凍結防止

- 必ず保温材(厚さ25mm以上)で被覆してください。
- 冷え込みの厳しい地域では、さらにナショナル水道凍結防止器(品番DR2232、30W以上)を配管およびバルブ類に巻いて十分な保温を行なってください。
- 水抜きせんは保温材で包み込まないでください。

凍結防止使用方法

- 正しい使用方法をしていただかなければ凍結のおそれがあるため、取扱説明書によりお客様に十分ご説明ください。

3

排気筒工事

各地の火災予防条例では排気筒(煙突)の設置基準を定めてありますので、必ず厳守してください。

開放式(RF)

排気トップの60cm以内に窓や換気口などの開口部がないこと。

排気ガスの噴出し方向を上方に変えたい場合には、別販の排気カバー(OW-KT8MZ)をお買い求めのうえ、同この工事説明書に従って排気部に取り付けてください。

強制排気式(FE)

φ105排気筒を使用してください。

支え線・支えわく・腕・金具などで固定すること

隠ぺい空間を通過させる場合
排気筒の接続は隠ぺい空間で行わないこと。排気筒の点検修理ができるような点検口を設けること。

金属以外の不燃物で被覆する。

周囲を点検できる空間を設ける
断熱材
通気性のある空間
点検口15cm以上

(機器から180cm以内の場合45cm以上)

給気口

300cm²以上

4

油配管工事

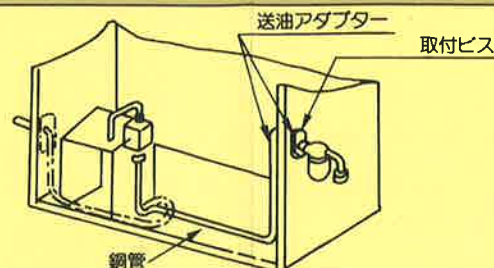
各地区の火災予防条例に適合した設置が必要です。

●油タンクの据付け場所は、下記の点に注意して選定してください。

- ①風通しのよいところで直射日光などの影響が少ない位置。
- ②屋内に設置する場合は、壁・柱・天井は不燃材とする。
- ③直接雨水がかからない位置。落雪の影響の少ない位置。
- ④落雷の影響のない位置。

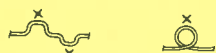
本体右側からの配管に組み替えられます。

- ①取付ビス(2本)をゆるめて送油アダプターをはずす。
- ②右側送油口のゴムキャップをはずす。
- ③送油アダプターの銅管を引き伸ばして右側送油口にビス(2本)で固定する。
- ④左側送油口にゴムキャップを取り付ける。



送油配管

- 配管材料はφ8 なまし銅管を使用してください。
- 配管の途中で空気だまりができないようにしてください。
- 銅管のフレヤ出しは必ずフレヤ工具を用いて行ってください。
- 配管接続部の油もれを必ず点検してください。
- 配管長は20m以内にしてください。



燃料フィルター(付属品)

- シールテープを使用して、油漏れのないように確実に締付けてください。

防火壁

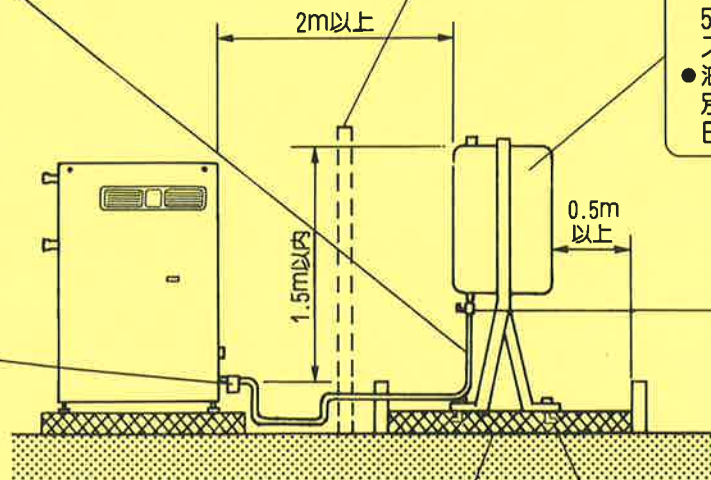
- 本体と油タンクの間隔2m未満のとき必要。

油タンク

- 本体下面より油タンク上面まで1.5m以内、油タンク下面までマイナス1.5m以内にしてください。
- 油タンクが1.5m以上低い場合は別販の自動灯油供給装置(OK-B80K)を使用してください。

燃料フィルター

- ゴミつまり防止のため必ず取り付けてください。



不燃材
(コンクリート基礎)

アンカーボルトで固定

●500ℓ以上、1000ℓ未満の油タンクを設置する場合

- ①設置届が必要な地方では、各地の火災予防条例に従ってすみやかに届出をしてください。
- ②見やすいところに危険物の品名・種別・最大量を記載した標識を取り付けてください。
- ③油タンクの周囲1m以内に建物の開口部がないことを確認してください。
- ④返油管接続口は必ずプラグで締めてください。
- ⑤下記のものを設けてください。
 - ・通気口(ステンレス製の金網キャップを取り付ける)
 - ・通気管(高さ2m以上・内径20mm以上)
 - ・防油壁
 - ・排油ます

5

電気配線工事

適切な位置に電気配線工事
会社の指定工事店

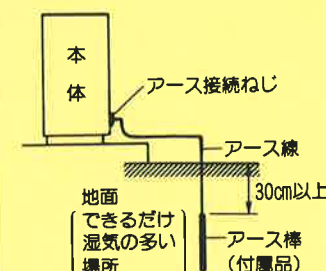
- 電源は単相交流100Vを使用してください。電源電圧が高すぎたり、低すぎたり
- リモコンケーブルの配線長は、台所リモコン、ふろリモコンそれぞれが20m以内

1. 電源工事

- 容量が15A以上の専用配線を必ず設けてください。
- 給湯機の専用コンセントを必ず設けてください。

2. 接地(アース)工事

- 万一の感電防止のため必ずアースしてください。
- 電気設備基準に基づき必ず電気工事士による第3種接地工事を行なってください。
(法令で規定されています。)



(ご注意)
ガス管や水道管、電話や避雷針のアース回路、又は漏電しゃ断器を入れた他の製品のアース回路には接続しないでください。
(法令で禁止されています。)

3. 台所リモコン工事

取付場所選定

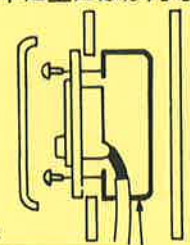
- 台所リモコンの取付場所は需要家様とご選定してください。
- ①防水構造ではないので必ず屋内に取り付け
- ②運転スイッチの操作が容易で、表示ランプ
- ③配線工事が容易で、配線の長さが20m以内
- ④高温(50℃以上)になる場所、湿気の多い
- ⑤幼児の手の届かない場所。

壁面に取り付ける場合

- ①台所リモコンの表ぶたを外す。
(右の図のように表ぶたと裏ぶたの間のナスドライバーなどを差し込んで、かる
- ②リモコン基板を外す。
(ネジ2本を外して、リモコン基板を裏
- ③別販のリモコンケーブルを端子台に固定
(極性なし)
- ④コードトメでリモコンケーブルを金具に
- ⑤裏ぶたを壁面に付属のネジ(4×20、2本
- ⑥リモコン基板を裏ぶたに固定する。
- ⑦表ぶたをはめ込む。
- ⑧リモコンケーブルのもう一方の端を製品を通し、本体制御器の「台所リモコン」端なし)

壁面に埋め込む場合

- ①～④までは「壁面に取り付ける場合」と同
- ⑤壁面に1コ用スイッチボックス(カバーナ
- ⑥スイッチボックスを基準に壁にほぼ同等の穴をあける。
- 以後は「壁面に取り付ける場合」と同じ手順で行う。



コンセントがない場合あるいは容量が少ない場合には、電気配線を電力会社に依頼し、容量が15A以上の専用配線を必ず設けてください。

すると誤動作の原因になりますので90~110Vを確保してください。

内になるようにしてください。

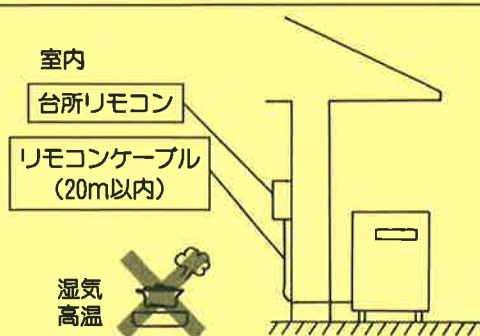
相談のうえ、下記の点に注意して

ける。

ブが良く見える場所。

内になる場所。

場所には取り付けない。



の切り欠き部にマイ
く手前にひっぱる。)

ぶたから取り外す。)

する。

固定する。

)で取り付ける。

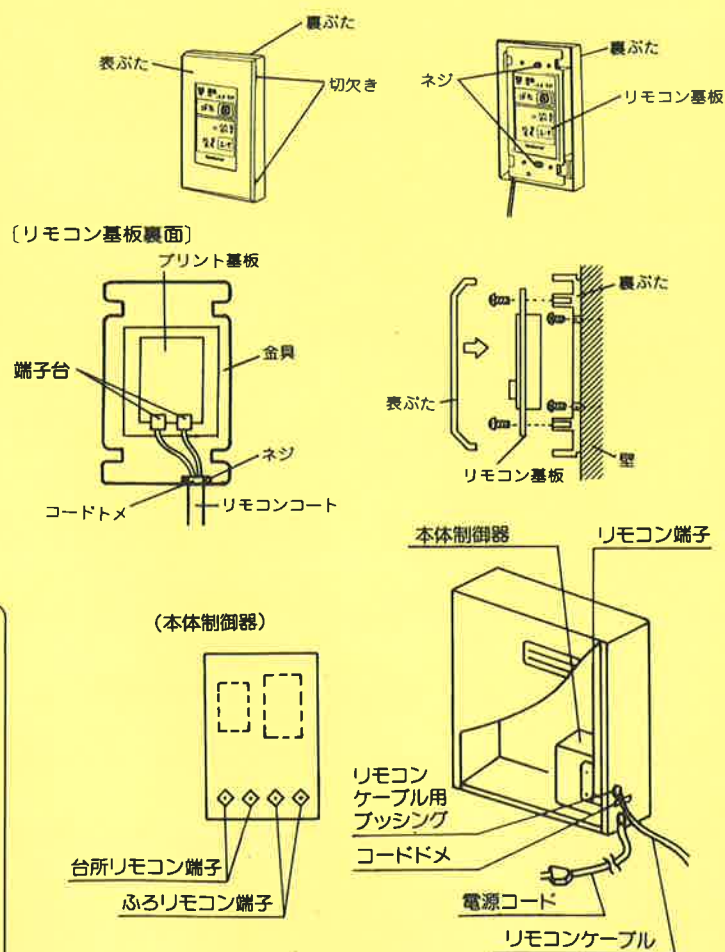
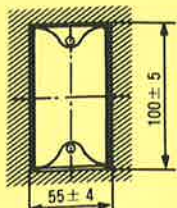
品右側面のプッシング
端子に固定する。(極性

じ手順で行う。

なし)を設置する。

の大きさ(55×100mm)

【壁穴あけ寸法】



6

試運転

据付けが完了したのち、「お引渡確認書・工事試運転チェックリスト」の項目に従って必ず、チェックと試運転を行なってください。

- 需要家様への引渡しに際して、同こんしてある「取扱説明書・注意書」をお渡し
のうえ、「使用方法・日常の手入れ」について詳しく説明してください。
- 特に「油タンク内の灯油を切らさないようにしていただくこと」と「凍結防止の
ための使用方法」については念を押して需要家様をお願いしてください。
- 長期にわたって機器を最良の状態を維持するため、需要家様に定期点検契約の
概要の説明と契約のお勧めを行なってください。

運転準備

- ①給油 ————— 油タンクに灯油(JIS1号灯油)を入れる。
- ②送油管の空気抜き — 燃料フィルターの空気抜きせんをゆるめ、空気抜きをする。
- ③油漏れの確認 ——— 配管および本体から油漏れがないか確かめる。
- ④給水 ————— 給水配管の元栓を「開」にし、給湯蛇口から水が出ることを
確かめる。
- ⑤水漏れの確認 — 配管及び本体から水漏れがないか確かめる。
- ⑥電源プラグの確認 — 専用コンセントに電源プラグをさし込む。

運 転

燃焼の確認

- リモコンの運転スイッチを「入」にして、予熱を行なってください。
予熱開始と同時にくみ上げポンプが運転し、油タンクから油を吸い上げます。
この時くみ上げポンプに油がくるまでの間、空打ちの為、大きい音を発生する
ことがありますが、すぐにおさまりますので、そのままお待ちください。
又、油タンクから給湯機本体までに、80秒以内に油が吸い上がらなかった場合、
台所リモコンの予熱ランプが点滅表示(リセット落ち)することがありますが、
その場合、台所リモコンの運転スイッチを1度「切」にした後、再度「入」にして
ください。
 - 予熱が完了してから、給湯せんを開けば燃焼を開始しお湯が得られます。
運転状態で次の異常がなく、正常であることを確かめてください。
 - ①送風モーターの回転異常音、パルスポンプの異常音および振動音。
 - ②着火異常音(着火おくれなどによるもの)。
 - ③排気筒からのスス発生、振動燃焼などによる燃焼異常音。
 - ④炎監視装置の異常などによる断続燃焼。
 - ⑤試運転時、排気筒トップより臭いや白煙が出ることがありますが、運転
を続けると消えます。故障・異常ではありません。
- 【ご注意】
- 正常に運転しない時は、「故障・異常の見分け方と処置方法」の項を確認し
て運転スイッチを「切」「入」してください。